

医療法人社団藤聖会・親和会 藤井久丈理事長に聞く



プロフィール

ふじい・ひさたけ 1955年富山県生まれ。80年金沢大学医学部卒業、85年同大学院卒業。医学博士。89年に医療法人社団藤聖会八尾総合病院に就任。2001年同理事長就任。12年に医療法人社団親和会理事長に就任した。現在は医療法人社団藤聖会及び親和会の理事長として、急性期医療に対応した八尾総合病院と慢性期の患者を受け入れる山田温泉病院4つのサテライトクリニック、5つの老人保健施設などを運営する。全日本病院協会富山県支部長、富山県医療審議会委員、富山県教育委員会委員。

2018年、富山市中町下野田に八尾総合病院(富山市八尾町福島)と山田温泉病院(同市山田湯)の機能を移した新総合病院が誕生します。ますます高齢化が進む県内で、地域医療はどうあるべきなのか。今後の病院の在り方について、両病院を運営する藤聖会・親和会の藤井久丈理事長と板倉均北日本新聞社長が話し合いました。

板倉 富山市中町での新総合病院建設の構想が明らかとなり、実現へ向けて大きく踏み出されました。まず、建設地に福中地域を選ばれた理由を教えてください。

藤井 現在、厚生労働省は「地域包括ケアシステム」という考えを打ち出しています。これまでの医療は病気の診断・治療と、病院の中で完結していました。しかし、今は高齢化が進んで人口動態も変化し、多数の疾病を抱える人が増えています。病気を治すだけでなく、患者のその後の社会生活を考える必要が出てきました。「医療から介護へ」「施設から地域へ」といわれるように、住まい・医療・介護・生活支援を一体的に提供する安全安心のネットワークシステムを構築しなくてはなりません。地域の医療機関や介護・福祉施設、地域包括支援センター、老人クラブ、民生委員などの連携が不可欠で、現在の八尾総合病院と山田温泉病院を含めた富山市南部のネットワークを考えたとき、ちょうど福中地域は中心部で

す。市内の公的病院とも連携が取りやすく、ここに軸足を置くことで、救急・急性期だけでなく、回復期のリハビリや在宅医療などについて「ワンストップ」で相談できる病院が実現すると思えます。

在宅医療をバックアップ

板倉 福中地域は富山市街地からも近く、人口も増えています。大きな総合病院ができれば、利用者にも歓迎されるのではないですか。新病院は、どのような概要になりますか。

藤井 二つの法人それぞれの病院が隣接する形で、相互に連携し、一つの病院のように一体的に機能させるつもりです。全体としては300床前後になります。最新かつニーズに合った医療提供は当然ながら、高齢化に合わせ、救急から療養、リハビリまで、さまざまな段階の患者を総合的に診察できる多機能分型化します。



北日本新聞社長 板倉 均

周辺の医療機関や施設とも協力して、地域に優しい病院を目指したい。例えば、在宅療養中の高齢者が「夜中に発熱した」「数日間だけ、家族の都合が悪くてケアできない」など、困ったときにいつでも入院を受け、在宅医療を後方支援します。地域の開業医が新病院の検査室や手術室、診察室などを予約・利用できるオープンシステムも採用するつもりです。地域のクリニックの分院と変わらぬので、紹介料や初診料が不要になり、患者負担を減らせます。八尾総合病院では、すでに同じような取り組みを始めています。

新病院を拠点に地域医療を支えたい

板倉 患者目線の運営ですね。どれくらい前から、新病院の構想を抱いておられたのですか。

藤井 八尾はもともと高齢者が多いので、地域の救急からリハビリ、介護までトータルで行ってき

は救急を担う気持ちで開設しました。ですが徐々に高齢化が進み、必ずしも「救急が重要」というだけでは済まなくなってきました。板倉 厚労省が推奨する地域生活を中心に据えた「地域包括ケア



医療福祉のI・Uターン提唱

板倉 団塊の世代が75歳を超えると、ますます高齢者が増えます。今後の地域医療を考えると、将来の人口動態や医療施設数の推移を考えると、重要なのは、2025年には東京圏(1都3県)で病床が足りなくなると、富山では余るといって指摘ですが、実際そうなるのでしょうか。

藤井 富山の場合人口減少の問題があります。現在、許可病床数が一般病床と療養病床で合計約1万4500床あるのに対し、推計によれば2025年には約27

00床が空いてくる。一方、東京圏は許可病床数が約27万床あつて25年には約7万8000床、40年には13万2000床も不足します。富山は医療・介護施設数が非常にバランスよく充実している、全国屈指です。それなのに人口が減少して病床が空いてしまう。北陸新幹線が開業して東京・富山の2拠点生活が提唱される今、実際に魚のおいしさや自然の豊かさに引かれて移住する人もいます。I・Uターンの発想で東京圏の「安心・安全・健康」を引き受けることも、今後必要なのではないかと思えます。

板倉 富山に対するイメージにも安心・安全がありますよね。そこに医療・介護をプラスすれば付加価値として注目が集まりそうです。

藤井 県や自治体に、東京圏の「I・Uターン医療・介護福祉センター」設置を提唱したいですね。富山の産業別でみると、医療福祉の従事者が意外と多い。I・Uターンで医療福祉に携わりたいという人も増えれば、富山の人口増につながるのではないのでしょうか。「医・食・住」が一つの目玉になると思います。

板倉 具体的に、どのようなアピールを考えておられますか。

藤井 医療も社会資源です。社会に役立ちたいという思いを持って、東京圏にアピールしな

シャトルバスを使って新病院と行き来できるようにします。もともとある老人保健施設やデイケアなどに加え、住宅や食事・買い物などの便宜を図る「医療介護・福祉・生活支援の統合ケア施設(仮称・八尾シルバークommunity)」を設置する予定です。山田温泉病院に関しては、地域医療診療所など、地域のニーズも踏まえて検討したいと思っています。

より幅広い専門医療を提供

板倉 県内では五福脳神経外科富山サイバーナイフセンターや「女性クリニックW.富山」といった関連医療機関、サービス付き高齢者向け住宅なども展開されています。今後の事業について、どのような構想を描いておられますか。

藤井 高精度の放射線治療や不妊治療など、いくつかの分野で専門・特化した医療を提供してきましたが、その範囲をこれから広げていきたい。第4のがん治療といわれる免疫療法や心臓カテーテル検査などの循環器領域などを検討しています。新幹線でもできましたし、「自分の医療技術や知識を発揮したい」という先生方を全国から富山に呼び込みたいですね。それ以外でも、ICT(情報通信技術)などの社会環境の変化に対応します。例えば、タブレット端末を活用し、訪問看護スタッフを広くネットワーク化するということも考えています。新しい時代に向け、地域医療を原点に信頼される病院をつくりていきたいですね。

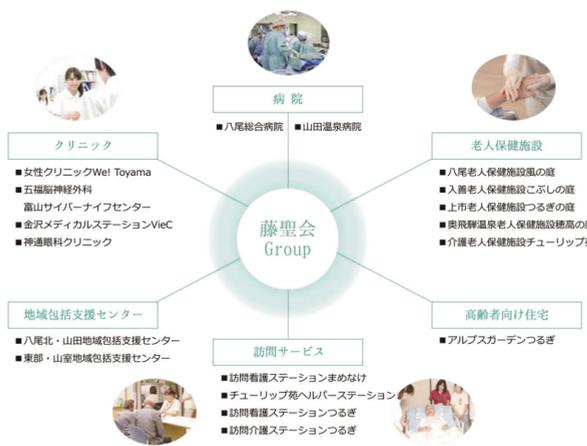


【出典】必要病床数・病床不足数の将来推計…都道府県別必要病床数算定(株式会社ケアレビュー)

医療法人社団 藤聖会

【法人本部】
〒939-2376 富山市八尾町福島7-42
電話: 076-455-3000
FAX: 076-455-3835

グループの基幹病院で、急性期治療を主体とした八尾総合病院(富山市八尾町福島)



【八尾総合病院】 富山市八尾町福島

介護予防を目的とした通所リハビリセンターでの集団リハビリ

【山田温泉病院】 富山市山田湯

在宅支援チームによるカンファレンス

慢性期医療と回復期リハビリテーションを提供する

【五福脳神経外科】 富山市鶴島

コンピュータ制御により、精密な放射線照射ができるサイバーナイフ

【介護老人保健施設チューリップ苑】 富山市長江

住み慣れた地域での生活を送れるよう、明るく家庭的な雰囲気のもとで医学的・管理・介護・生活リハビリ等を提供する